

ICT を活用した教育の進化と成果：私たちはパンデミックにどう向き合い何を得たか

古川 和稔（東洋大学 福祉社会デザイン学部）

1. COVID-19 感染拡大と DX の進化

2020 年 3 月から急速に感染拡大した COVID-19 によって、我が国は前代未聞の大混乱に陥った。介護福祉士養成教育も例外ではなく、まさに暗中模索の状態での授業運営に取り組んだ。この 3 年間、私たち教職員はどのようにパンデミックに向き合ってきたのか。個人として、そして組織として、与えられた環境の中でベストを尽くし、困難な状況にしなやかに対応してきたのではないだろうか。介護福祉士養成教育は現在、様々な困難を抱えているが、私たちがパンデミックに向き合い、そして克服してきた経験や心持ちは、今後、あらゆる場面で活かされるのではないかと考える。そこで今回は、私自身が経験したことをもとに、教育現場における Digital Transformation（以下、DX）の進化と課題について報告する。

2. リモート授業導入までの準備

2020 年 3 月の時点で、翌月から始まる 2020 年度は、リモート授業中心で行うことが周知された。本学では以前から Cisco 社のリモート会議システムが導入されていたが、私も含めて、大半の教員は使用した経験がなかった。正規のマニュアルもなく、数週間後に始まる新学期に向けて、安心材料は一つもない状況だったと記憶している。インターネットで検索したところ、ある大学の教員が、このリモート会議システムについて解説している資料がヒットし、その資料をもとに独学で学習した。その後、学内の掲示板を使って、自主勉強会の声掛けをしたところ、他学部も含めて 70 名近くの教員から反応があった。

3. リモート授業導入初期

教員も学生も不慣れな中で、2020 年 4 月からリモート授業が始まった。当初は、学生側のインターネット環境や通信容量の問題、教員側の操作の問題など、初歩的な障壁が多く存在した。さらに、ビデオ通話をオンにするかオフにするか、学生の出席状況の確認方法、課題提出方法や試験の実施方法などの問題も抱えていたが、それらに対しては、まさに走りながら対応していくという状況であった。

4. リモート授業導入中期

課題山積での新年度だったが、徐々に教員も学生もリモート授業に慣れ、機器の操作といった初歩的なミスは少なくなっていく。それに伴い、授業の質をどう担保するのかという、別の課題がみえてきた。私は、本学が以前から導入していた Learning Management System（以下、LMS）と、Google 社が提供している各種サービスの活用、さらには、授業の双方向性について意識することにより、徐々に授業の質を上げることが出来たと感じている。

5. 現在と今後

介護福祉士養成教育現場における DX は一気に進んだ。現在、多くの介護福祉士養成校では、対面による、いわゆる通常授業に戻っているが、この約 3 年間で得た経験と知識は、今後の教育に大いにプラスに働かせることが可能だと考える。